



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

contents

第25回社会福祉法人経営青年会全国大会 1・2面
青年会所属法人のご紹介 社会福祉法人篤星会 2・3・4面
社会福祉法人愛川舜寿会 4・5面
活動報告 一令和4年度第1回総会一 5面
お知らせ 一今後の予定・新入会員紹介・会員数一 5・6面

第25回社会福祉法人経営青年会全国大会

新型コロナウイルス感染症により、一昨年前は中止、昨年はオンラインによる開催、その影響も緩和され、本年は10月13日（木）と14日（金）、福岡県にて3年ぶりに対面での全国大会が開催されました。参加者数は約300人、3年前に名古屋市で開催された時よりは少ない参加者でしたが、多くの都府県の会員が集い、盛大に開催されました。神奈川県からも15人が参加しました。常日頃から人と接することの多い、福祉に携わっている私たちは、対面による講義や会員同士の交流を求めているのではないのでしょうか。

開会式では梅野高明全国社会福祉法人経営青年会会長の主催者挨拶、服部誠太郎福岡県知事からの来賓祝辞などをいただき、そのまま高島宗一郎福岡市長と梅野会長の記念対談に入りました。高島市長は元アナウンサー、36歳という若さで福岡市長に就任、様々な施策を展開して、世界で最も住みやすい都市ランキングでベストテンに選ばれる福岡市をつくりあげ、今もなお、次のステージへ押し上げるためのチャレンジをされています。それらの取り組み、そして未来について、具体的な話を聞くことができました。次に「地域共生社会の実現に向けて」というテーマで宮下雅行厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長の講演があり、最後はトリゼンホールディング㈱代表取締役社長の河津善博様から「失敗を1%も恐れない経営術」というテーマで、ご自身の経営についての歴史とともに、手法や考え方などについてのご講義いただきました。1日目の最後は恒例の会員交流の場、懇親会です。福岡県の同志の皆様を中心に大いに盛り上げていただき、楽しい時間を過ごしました。

2日目、第3分科会「持続可能な組織づくり～心理的安全性から斬る！～」では、わが真壁会長がパネリストとして登壇いたしました。組織や人材のマネジメントについては、各法人・施設ですでに様々な取り組みを行っていますが、全ての課題が解決するわけではありません。しかし、様々な事例を参考にして、自分の法人・施設



1日目の様子

に取り入れることは、大いに役に立つことです。そんな視点からも会長の発表をはじめ、司会者や登壇者、コメンテーターの㈱オフィス・ニーズ代表の森西美香様のお話は、大変有意義なものになりました。心理的安全性の詳細については、2次元バーコードより動画をご覧ください。次にJR九州の営業部営業課担当部長の加藤邦忠様から地域連携についてのお話を聞き、最後に次期県開催である広島県の藤井尚三郎会長から挨拶をいただき閉会いたしました。2日間、盛りだくさんのプログラムで久しぶりに充実した時間を過ごしました。



心理的安全性動画



真壁会長登壇

個人的なことになりますが、この全国大会が最後の大会になりました。3年ぶりの大会に参加し、改めて志を同じくする仲間とともに勉強そして交流すること、とてもありがたく、大切なことと感じました。幅広い地域から様々な思考を持つ同世代の集う会に参加し、自己鍛錬すること、それがきっと社会福祉法人の明るい未来に繋がると信じています。神奈川県経営青年会会員の次年度以降の積極的な参加を期待しています。

【監事 福原高洋】

法人紹介

社会福祉法人 篤星会 ～かけがえのない命が輝く場所～

【法人の紹介】

2001年、地域の保育需要が高まる中で、神奈川県相模原市に法人を設立しました。2002年には法人1施設目となる星の子保育園を開園。0歳児から5歳児までの定員90名、広い園庭と畑を魅力とする、地域に根差した子育ての拠点を作りました。その後も同市の待機児童数増加に伴い、2009年には定員50名の星の子第2保育園、2015年には定員60名の星の子第3保育園を設立しました。

待機児童数の減少に伴い保育需要が安定していく中で、2019年、沖縄県石垣市に法人初となる小規模保育所、星の子石垣保育園を設立しました。2022年には神奈川県横浜市にて、星の子白根保育園の運営を開始しました。



星の子保育園

【施設の紹介】

□ 神奈川県相模原市（星の子保育園、星の子第2保育園、星の子第3保育園）

法人本部のある相模原は人口約72万人の政令指定都市です。施設の最寄り駅である橋本駅周辺では、大規模なりニア中央新幹線の開発が進められており、人口の減少、少子化が進む中でも地域の活性化が見込まれています。施設のある緑区は人口約17万人弱、文字通り緑豊かな地域で自然を近くに感じられる地域でもあります。恵まれた環境を活かして戸外活動を積極的に取り入れ、自然を身近に感じ、子どもたちの豊かな心を育てています。



星の子保育園 園庭

□ 沖縄県石垣市（星の子石垣保育園）

開園当時、石垣市の人口は約5万人弱にもかかわらず待機児童割合が多く、地域の保育需要が高まっていました。星の子保育園で保育士として働いていた、石垣市出身職員の「地元で保育園を開きたい」という強い思いと、保育需要の高まりもあり、設立へと至りました。



星の子保育園 園内



星の子石垣保育園

設立後すぐにコロナ渦となりましたが、ICT化による遠隔での運営管理をもとにしていたため、大きな混乱なく進めることができました。一年中半袖で過ごせる温暖な気候の中、小規模保育所ならではのあたたかく、子どもと保護者に寄り添った保育を提供しています。

□ 神奈川県横浜市（星の子白根保育園）

令和4年4月より、横浜市からの民間移管を受けて運営を開始しました。コロナ禍で行事や保育の大きな変化、感染症への恐怖が収まらない中での移管となり、利用者の不安を最小限に抑える必要がありました。そのため移管前より利用者への説明や意見交換を十分に行い、子どもたちが安心して過ごせるよう配慮に努めました。今後も、利用者のニーズに応じた柔軟なサービス提供体制を整えるため、『子ども』と『保護者』と『職員』の3つの柱で連携しながら地域の子育てを活性化していきたいと考えています。



星の子白根保育園

【施設の取り組み】

～かけがえのない“いのち”を守るための環境整備～

近年、保育業界のICT化が進められている中、当法人では以前よりICT化による園児の登降園時間の管理、保育士の手書き業務省略などを行っていました。SIDS（乳幼児突然死症候群）の死亡者数は減少傾向にあるといわれていますが、発症リスクを少しでも減らすために午睡チェッカーを導入し、午睡時の見守りを強化しています。

今後も子どもたちの安全配慮と保育士の負担軽減はセットで進めていく課題だと感じています。開園20年を迎えた星の子保育園では、大規模な園内改修を行い、トイレのジェンダーレス化など、多様化する時代に合わせた保育環境の整備を職員と検討して進めています。



改修後トイレ

【ひと言】

「子育ては“星の子”に」と、地域の方に思っただけのような施設運営を目指しています。保育所保育指針の改定やコロナ渦など、保育を取り巻く環境の変化は著しく、対応をするためには組織としての力が必要だと感じています。その中でも前進を続けられるよう、職員一人ひとりが法人の基本理念をもとに日々の保育を大切にしていけるようなサポートをしていきたいと考えています。



事務長 小星直樹氏

法人紹介

社会福祉法人 愛川舜寿会 ～福祉を基点とした地域共生文化の創出～

【法人の紹介】

愛川舜寿会は、神奈川県愛川町で事業を展開する社会福祉法人で、30周年を迎える。理念は「共生・寛容・自律」、ビジョンは「社会をやさしくする」。職員数は150名ほどである。法人立ち上げの経緯はそれまで酪農家だった理事長馬場学郎の両親の在宅介護の経験である。1992年に特別養護老人ホーム（以下、特養）ミノワホームからはじまった愛川舜寿会だが、現在は特養のほか、障害のあるなしによらず0～18歳が通える放課後等デイサービスと児童発達支援を携えたインクルーシブな認可保育園「カミヤト凸凹保育園」、2022年3月には、1970年代に栄えた住宅街のなかにある荒廃する商業エリアに立ち上げた、地域共生文化拠点「春日台センターセンター」などを経営している。



春日台センターセンター

【春日台センターセンターとは】

ここは障害者就労継続支援事業としてコインランドリーと洗濯デリバリー事業の「洗濯文化研究所」や、コーヒーやビールも飲めるカフェスタンドの「春日台コロッケ」に加え、放課後等デイサービスと認知症グループホームと小規模多機能居宅介護、さらには学習支援の寺子屋などが一つの屋根の下で展開される超複合型福祉拠点である。神奈川県愛川町は、河岸段丘の台地から河川までを田畑がつなぐ自然豊かな環境で、鉄道の通らない人口4万人ほどのまちである。なかでもこの地区は、近隣の工業団地を支えるべく1968年「春日台」と命名されて宅地開発が始まった、高度経済成長期の産業ベッドタウンである。荒廃する商店街には見事な枝ぶりのケヤキが腰を据え、その周りで子ども達が鬼ごっこやボール遊びをしているが、地域は高齢化を迎えて長屋店舗の半分以上が閉まり、活力と寂しさが隣り合う。

2016年、商店街の核をなすスーパー『春日台センター』店主の「店をたたむ」という言葉から「この街で10年後どう暮すか」を考えるつどい、“あいかわ暮らしラボ（通称あいらボ）”という地域の人たちとのワークショップを立ち上げ、動き始めた。その活動を重ねるなかで、住民から上がってきた声を形にしたのがこの拠点で、「春日台センター」をもう一度このまちの中心（センター）に」という拠点名となった。



洗濯文化研究所

【ひと言】



馬場拓也 常務理事

社会福祉法人という非営利の組織体が、地域のなかで担う役割を明確化、または圧倒的なものにすることが持続可能な経営を支えるのだと思っています。皮肉なもので私たちは、社会の課題が出れば出るほど活躍の場が増える仕事です。高齢・障害・保育事業の「余白」を大きく取り、社会保障のステージに上がれない役者たちを引き寄せ、引き上げることが必要な時代だと感じます。例えば外国人集住地域であるこの町では、子どもたちが学習の遅れから不登校になる事例が散見されています。その課題を、行政の仕事だとして傍観するのではなく、市民の活動を喚起させるような仕掛けと、福祉事業をひらき、見える

化していくことができるのではないかと。建築家ヴォルター・グロピウスの言葉に「人の心とは傘のようなものだ。開いた時に最も機能する」というものがありますが、まちにひらかれた運営をすることで、目的とされる事業のその周りにある、まちの小さな困りごとをゆるやかに解決へと導くこともできるのではないかと。そして、それらこそ、きっと営利企業では成し得ないご当地課題へのチャレンジになると思うのです。



寺子屋

活動報告

令和4年度第1回総会

令和4年6月7日、TKP横浜駅西口カンファレンスセンターにて約2年振りに集合による第1回神奈川県社会福祉法人経営青年会総会が開催されました。

冒頭真壁会長の挨拶後、出席14名、委任状提出31名の全会員数の過半数を満たし総会の成立を確認しました。

議長は松緑会小倉氏が全会一致で任命され、議事を進行しました。

第1号議案令和3年度事業報告(案)について

第2号議案令和3年度収支決算報告(案)について

は、それぞれ全会一致で承認されました。

【総務広報委員 石川 友紀】



総会後の集合写真

【令和3年度卒会者のご紹介】

本会に多大なるご尽力をいただきました令和3年度の卒会者をご紹介します。

武藤祐生様（愛の森） 高田修嗣様（育生会） 谷章子様（つちや社会福祉会） 【順不同】

長い間、会の発展のためにご尽力いただきありがとうございました。

今後のご活躍と所属法人の益々の発展をお祈りいたします。



お知らせ

今後の予定

詳細については、案内書、またはホームページでご確認ください。

開催日	テーマ等	場所等
令和5年1月13日	会員交流会	HOTEL PLUMM 横浜
令和5年2月9、10日	関東甲信越静岡ブロック総会・研修会	ホテルグローバルビュー新潟
令和5年2月20日	保育研究委員会 研修会	茅ヶ崎市民文化会館
令和5年3月7日	第2回総会 研修会	崎陽軒

新入会員紹介

川村彰子様（敬寿会） 五十嵐大輔様（敬寿会） 金澤典子様（敬寿会）
石堂諒様（敬寿会） 畑原崇佑様（敬寿会） 藤森希様（敬寿会）
鎌田真理子様（敬寿会） 桜井裕也様（敬寿会） 中村憲市様（横浜白光会）
山口利男様（横浜白光会） 平出裕司様（横浜白光会） 石黒智也様（横浜白光会）
市川裕之様（雄飛会） 大塚健輔様（蓬萊会） 今井誠様（東の会）
大滝愛子様（道志会） 倉田真樹様（久寿会） 原田和幸様（久寿会）



会員状況

95名 法人数61法人 （令和4年10月31日現在）

編集後記

皆様、お忙しいところ広報誌の原稿作成にご協力いただきありがとうございました。
今回は、新たな試みで青年会所属の法人紹介の記事をのせました。
ぜひ、今後の会員交流に役立てればと思っております。今後も定期的に紹介しますので、ぜひ、我が法人を！という方は、ご連絡ください。（Yuki Ishikawa）

発行／神奈川県社会福祉法人経営青年会

連絡先／〒221-0825

横浜市神奈川区反町 3-17-2

神奈川県社会福祉センター7階

（福）神奈川県社会福祉協議会

福祉サービス推進部

電話：045-534-5662

Fax：045-312-6302